

静岡県の桜類雑報 (一)

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2022-02-28 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 杉本, 順一, Sugimoto, J メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/2297/00065531

This work is licensed under a Creative Commons Attribution-NonCommercial-ShareAlike 3.0 International License.



杉本順一※ 静岡県 の 桜 類 雑 報 (一)

J. Sugimoto : Miscellaneous Notes on the Cherries of
Shizuoka Prefecture (1)

緒言 静岡県はいろいろの植物に富み、例えばシダ類、ツツジ属、テンナンショウ属、カンアオイ属、ラン科、キク科、スゲ属等に於ても断然他府県に比して著しく種類が多い。併しながらサクラ類に関しては未だ誇るべきもの無く只僅かに富士山麓の上井出村にある狩宿の駒繋の桜がヤマザクラの巨木として全国に其の名を知られるに過ぎない。静岡県に自生するサクラ類は、チョウジザクラ、マメザクラ、ミネザクラ、コヒガンザクラ、エドヒガン、ヤマザクラ、エゾヤマザクラ、カスミザクラ、ミヤマザクラの9種で、之等の品種や間種などが若干知られている。茲には静岡県に自生するもの及び栽培せらるるもの内で特に注意すべき種類について報ずる。

I 寒桜に4種ある 静岡県には所々に寒桜が植えられ、早く寒中に咲くので毎年新聞に報道されるけれど、最も普通のはベニカンザクラで、之に次いでシロカンザクラである。昨年2月当地の接木界の権威として園芸界に高名なる稲葉璣先生から材料を頂いて其の研究を頼まれたので調べて見た所が上記の2種の外に別に2種の未知品がある事が判つた。

1. ベニカンザクラ *Prunus campanulata* Maxim. 伊豆の各温泉地で寒桜として知られ、アタミザクラ等とも称されている。拙宅にも前に一本あつて毎年1月から2月にかけて真赤の花が咲き、よく観察する事が出来た。枝は紫褐色で無毛。芽鱗片は小形無毛で早く脱落する。花は2-3つつ下向し、花梗は8-12mm無毛、花は葉前性で全体濃赤色、萼筒は鐘状筒形で基は丸いが膨みなく、先の方が少し開いている。蕾のとき少し横皺がある。萼片は筒部の半長、卵形で全辺、先は鈍形、全く無毛、花卉は斜開性、卵状広楕円形、長さ約13mm内外、雄蕊36-38本、花柱無毛。

2. シロカンザクラ *Prunus Kanzakura* Makino 枝太く褐紫色に灰色を帯び大なる皮目が散生する。若葉は緑色無毛で針状鋸歯を有し、ヤマザクラよりもオオシマザクラの系統色が濃く、オオシマザクラと他種との雑種の様にも考えられる。花芽は太くて、苞は大形緑色で3裂する。花は4-5束生し総梗が極めて短縮して繖形を呈する点はオオシマザクラと異なる点である。小苞は緑色大形、無毛、萼は緑色で無毛、形はオオシマザクラに似て、萼片は大きく披針形で細鋸歯を有し、筒部よりも長い。花卉は白色、卵状広楕円形で長さ約13mm位、雄蕊38-40本、花柱は無毛。

3. キサラギザクラ (如月桜の意、新称) 実際は2月下旬に咲く。ベニカンザクラに似た所がある。併し彼よりも花季が遅い。枝は小皮目が点在し、紫褐色、花芽は3-4個つつ簇生し、鱗片の数が甚多い、苞片と共に無毛。小苞は苞片より小形、花は2、下向し

※ 静岡市八幡本町5丁目 杉本植物研究所

赤色であるが、ベニカンザクラよりも淡色である。総梗なく小梗は細く無毛、長さ10~12 mm、半面緑色で表面赤褐を帯び、萼筒は鐘形で帯赤色無毛、長さ7 mm、萼片は広楕円形で先丸く微尖端あり、長さ4~5 mm、花弁5、円形、基部広く截形で僅かに花爪が突出し、先端の切込は顕著である。雄蕊約30本位、雌蕊は退化しているので雑種性が強い。花だけで見るとベニカンザクラと他種との雑種と考えられる。後日更に比較して決定したいと思う。

4. **セツブンザクラ** (節分の頃に咲く意味) 本種はヒガンザクラなどに似ているが花季が著しく早く2月に開花する。静岡市でエドヒガン及コヒガンザクラは3月下旬に咲くので約1ヶ月早く咲く。枝は灰色を帯びた紫色で細く無毛、皮目がある。若葉は無毛。花芽の鱗片は多数で、無毛、苞は小形。花は2~4、通常3個、総花梗3~6 mmありて小苞は扇形で小形、小花梗7~12 mm、萼は美しき赤色で無毛。筒部は鐘形で上部が軽く縊れるので下方が丸く膨みを見せる。長さ7 mm、萼片は広楕円形、先微尖端ありて僅かに辺毛がある。長さは筒部より少し短い。花弁は円状広楕円形で長12 mm、雄蕊約45本位、花柱無毛。萼筒の形はヒガンザクラの其に類するも無毛の点は全く異なる。ヒガンザクラと他種との雑種と考えられる。後日更に精査して母種も推定したいと思う。

II **四季桜の2品** 各地で四季桜とか不断桜とか称するものには色々の系統があつて、或は単にヤマザクラ、コヒガンザクラの花季の変化したものや、雑種や、変種やを含み、之等の内には生理的の返咲が常習性となつたものも含まれる。静岡県に於て四季桜として著名の2品を解説しよう。

1. **千葉山の四季桜** 島田市と云つても数年前迄は志太郡大津村に属し、島田駅の北方約12キロ程の山奥にある智満寺の庭内に一本の小さい木がある。因にこの寺には杉の巨木が10本あつて名高い所である。本種は四季桜と称するも大体に於て秋と春の2回に開花し、時には其の間の季節にも僅かながら花が咲くと云う。本種は全くヤマザクラの性質を呈し花梗、萼及び花柱の形や無毛の点、葉形や葉裏に白味を帯びる点でヤマザクラの変形と考定する。

2. **常輪寺の四季桜** 駿東郡富岡村桃園の常輪寺の本堂前に一本の四季桜がある。高さ4 m位の小木であるが年数は相当のものである。他に1本あつて、同寺から数丁離れた山麓に俳人宗祇の句碑近くにあつて、之は原木で之より大きく主幹は枯れて側芽が伸びて高さ6 m余に伸びている。本種は枝細く幼条に細毛がある、葉柄は密毛ありて長さ7~10 mm、葉は二形あり、短枝のは倒卵形で先は尾状に突出し広楔脚、長さ3~5 cm、長枝の葉は長楕円形で先端鋭尖形、長さ52~63 mm、両面共に伏毛を生じ殊に下面脈上は多毛、細重鋸齒あり、側脈12~14、秋咲の花は2出し総梗なく、小梗3~5 mm有毛、萼筒は下半膨みて上方に縊れあり、少毛あり、長さ3~3.5 mm、萼片は平開し卵形、長さ2.8~3 mm、花弁5、長楕円形、長さ8~9 mm、雄蕊不同長、花柱は無毛。花季は10月末より開き始めて11月に満開となり、寒中少しづつ開花し続け春のヒガンザクラの花季に開き、色は普通のヒガンザクラと同じ色である。本種はコヒガンザクラと一致し、其の花季の特性によつて学名は *Prunus subhirtella* Miquel f. *semperflorens* Miyoshi in Bot. Mag.

Tokyo, XLII, 550 (1928) シキザクラである。

✓ **III シモカモザクラ** (仮称) 昭和27年4月植物園協会総会が伊豆南端の静岡県立有用植物園で開催された際に、全国から植物学及園芸学関係の方が多数参加された。筆者も田中愉一郎博士の御招に預つて御供するを得た。その時の一収穫の事である。同月7日下賀茂温泉に一泊し翌朝鈴木館の二階から満開のソメキヨシノを眺めている時の事である。富樫誠氏が同館裏に並んだソメキヨシノの内の1本が色が違ふと云われたので、石田文三郎先生や草下正夫先生などと其の木を見に行つた。富樫氏は軽快なる木登りによつて其の枝を切つて下さつた。早速同席に居られた本田博士や北村博士に見てもらつたが、ソメキヨシノに比して各部の毛が薄くて、花の色も白く、ヤマザクラと比べて少し乍ら毛を帯び、両者の間種と判つた。其後別に発表もない様で、筆者として郷土県内の事であるからそのままに葬り去られるも残念と存じたので、潜越ながら茲に報告する事とする。学名はソメキヨシノの1品とし別に品種名は命じない。元来ソメキヨシノは雑種性のものであつて、之も其の内に包含さる可きものであるからである。併し和名位はあつた方が便利であるから下賀茂温泉に因んで富樫氏と私が仮にシモカモザクラと呼ぶ事にした。 **Prunus yedoensis** Matsum. forma

✓ **IV ヤママメザクラ** (新称) *Prunus affinis* Makino = *Prunus incisa* × *Jamasakura* ヤマザクラとマメザクラの間種である。マメザクラの多く自生する所には時々見つかるものである。武蔵高尾山や相模箱根山は既知の産地である。静岡県下にも各地に産する。伊豆では小室村(今は伊東市となる)、一碧湖畔、修善寺、駿河では須山村、上井出村田貫湖附近等で採集した。花の形や大きさ、葉の形などは両者の中間である。

Prunus affinis Makino in Bot. Mag. Tokyo XXII, 99 (1908)—Koehne in Sarg. Plant. Wilson. II. 249 (1912)—*Prunus incisa* var. *serrulata* Koidzumi in Bot. Mag. Tokyo, XXIX, 314 (1915), syn. nov.

V シオカゼザクラ *Prunus idzuensis* Nakai 伊豆半島や房総半島にはヤマザクラの自生が多い。オオシマザクラは自生でないけれど古くより伊豆列島から移して薪炭材として優良で成長も早いので多く栽培されて恰も野生品と区別が判らぬ位になつている。従つて両種間に交配が行われ、種々の変異も生じたので、伊豆や房総へ桜を見に行くと実に色々の桜がある。中井博士もこの地方で新種を沢山発表されているが、其の中の一つにシホカゼザクラがある。本種の原木は県立有用植物園にあつて、同植物園長竹下康雄氏の御好意で花盛の原木を研究する事が出来た。同原木は小さい木で、標本を採る事すら後で枯損の心配があるので注意すべきである。記載は東亜植物図説5巻2輯(1952)151頁481頁である。尙之の品種に白花シオカゼザクラ、伊豆ハタザクラ(雄蕊1~3が弁化したもの)を記している。中井博士によるとオオシマザクラに似て芽に粘質なきこと、葉に鋭い重鋸のあること、萼片に辺毛あること、花柱に微小の疣状突起のあることを以つて区別点としている。私の見る所ではオオシマザクラの一品であつて、色は淡ピンク色である点が違う位のものであると思う。

Prunus Lannesiana (Carr.) Wils. f. *idzuensis* (Nakai) Sugimoto stat. nov. =

P. idzuensis Nakai, in Icon. Pl. Asia-Orient. V-2, 481, t. CLI (1952)

- ✓ **VI オトヒメザクラ** *Prunus paramutabilis* Nakai 中井博士は東亜植物図説 IV-4, p. 426, t. 135 (1949) で千葉県館山市真倉の山地で発見し、後遠州小笠山にも産すと記している。同書について見るとヤマザクラと同物と思われる。唯異なる主な点は葉縁に複鋸歯のあることと葉表面に微毛が散生するだけの相違でヤマザクラの品種に下すのが公平の様に思う。この様な型は東海道一带に分布している様である。

Prunus Jamasakura Sieb. ex Koidzumi in Bot. Mag. Tokyo XXV 184 (1911)
f. **paramutabilis** (Nakai) Sugimoto stat. nov.—*P. paramutabilis* Nakai in Icon. Pl. Asia. Orient. IV-4, 426, t. 135 (1949)

- ✓ **VII ナガバヤマザクラ** *Prunus superflua* Koidz. この桜はヤマザクラに似て葉が細長く、先が漸次鋭尖するものである。原品は筑前秋月のもので、この様な形は東海道、四国、九州に野生品及び栽培品が見られる。田代善太郎先生の御好意で原標本も拝見した事がある。この型は静岡県では安倍郡梅島村、志太郡東川根村にある。大井先生に伺った所、ヤマザクラと同種であると云う。併し細かく分ける場合はヤマザクラの一品種としても悪くないと思う。同じ事にマルバヤマザクラも葉の広い一品とする。後者は西遠洲に稀生する。

- ✓ **Prunus Jamasakura** Sieb. f. **superflua** (Koidz.) Sugimoto stat. nov.—*P. superflua* Koidz. in Acta Phytotax. Geobot. I-2, 175 (1932) f. **dilatata** (Nakai) Sugimoto stat. nov.—*P. mutabilis* var. *dilatata* Nakai, in Bull. Sci. Mus. Tokyo, 29, 95 (1950)

VIII クモキザクラ *Prunus alpina* Koidz. 本種は高山に生ずる灌木である。分枝が多く葉は著しく小形となりて苞と小苞は却つて大形である。本種は小泉秀雄氏が1922年甲斐北岳で初めて採集したもので其後甲斐白河内岳其他にも知られた。筆者は甲斐北岳や駿河荒川岳で採集した。本種はミネザクラの変種と考える。

Prunus nipponica Matsum. var. **alpina** (Koidz.) Sugimoto stat. nov.—*P. alpina* Koidz. in Bot. Mag. Tokyo, XXXVIII, 102 (1924)—*P. kitatakensis* H. Koidzumi in Shinsyû, V-9, 58 (1923) nom. nud.—in Tennen Kinenbutsu Chosa-hokoku, Nagano pref. XIV. 296.

- ✓ **IX ミドリザクラ** *Prunus incisa* f. *Yamadei* (Makino) Ohwi 之はマメザクラの白花品で萼其他は赤味が無く緑色である。日光植物園に松村義敏氏を御尋したとき丁度この花の盛りであつた。本品は山出半次郎氏が駿河御殿場から富士山に登る途中で発見された珍品である。稲葉鏈氏は本原品の接木を増殖されて筆者も其の一株を頂いて拙庭に移植する事が出来た事は今後の研究にも該品の保存にも喜ばしい。

本研究をなすについて標本を恵与されたる松村義敏氏(日光方面)、久保田秀夫氏(同)、古瀬義氏(信州方面)、室井緯氏(岩手及兵庫方面)、竹下康雄氏(伊豆方面)、羽田最氏(伊豆方面)、稲葉鏈氏等各位に厚く感謝する。これらの標本は直接間接に比較研究に多大の便宜が得られた。